

「大覚寺 身振り狂言」 2014.2.3.
©「節分 厄払い」



壬生狂言と同じ流れを受け継ぐ尼崎大覚寺狂言
節分の豆まきのいわれをユーモラスに見せる「節分厄払い」
2014.2.3. 尼崎大覚寺で

大覚寺身振り狂言 節分 厄払い

2014.2.3.



◎「節分 厄払い」 あらすじ

後家さんが節分の用意をしているところに、厄払いが来たあと 鬼が後家に近づきます。鬼はいろいろ変装するが二度まで失敗します。

三度目に打出の小槌を使って変装して、女の好みの品を取り出して近づいてきます。 後家は大喜び。

鬼とは知らずに欲を出した後家は 小槌が欲しくなり、酒を呑ませて眠らせ、小槌と衣服を剥ぎ取ります。後家は鬼の正体を見て驚き逃げ出す。

目を覚ました鬼は後を追うが、後家は節分で用意していた豆を投げつけ、鬼は退散する。

この「節分厄払い」は節分に壬生狂言として、京都壬生寺でも奉納されていました。





雨も上がり、薄暗くなった午後5時20分 身振り狂言「節分厄払い」2回目が始まった



節分の朝 後家さんの家では門口の両側の軒先に飾り付けた柵に鯛の頭を刺し、
豆をまき、家内安全を祈り、怖い鬼からの厄払



節分の飾り付けが終わった頃、厄払いがやってきた。
後家さんは怖い鬼を追い払うおまじないをするよう頼む



厄除けは 鬼払いのまじないをしてかえってゆく
「鶴は千年 亀は万年 東方朔は九千年三浦大介 百六つ 向こうから鬼が来た
私が払いましょう」と唱えて、厄除けのまじない。 豆と銭を貰って帰ってゆく。



厄払いが帰った後、鬼が後家の家に現れた



後家さんの家に鬼がやってきた
後家さんは 鬼の姿をみて びっくり仰天 逃げまどう



後家さんに逃げられた鬼は色々策略をめぐらし、蓑と笠をかぶって旅姿に変装して近づくが、見破られて失敗する



失敗した鬼は門口の鯛の頭を食べて、次の算段 打ち出の小槌を取り出し、着物を取り出し変装
後家さんには美しい着物や帯を出してあげると誘いかける



打ち出の小槌で美しい着物や帯を出してもらった後家はんは有頂天



欲が出て「打ち出の小槌」が欲しかった後家はんは、小槌でお酒を出して飲みかわそうと持ちかける



上機嫌で酒を飲みかわすうちに、変装した鬼は酔いつぶれて、眠ってしまいました



後家さんは恐る恐る寝込んだ鬼に近づいて「打ち出の小槌」を取ってしまいます



づにのった後家さんは変装をはがして 顔を見てやろうと着物や覆面をはがしにかかります



着物や覆面を取り去って現れた顔は「鬼」 驚く後家の声に目を覚ました鬼が追いかける



後家さんは逃げ惑いながら、鬼の払いな豆の箱を手に取り、豆を鬼に投げつける



これはたまらんと 鬼はついに逃げ出してしまう
後には、打ち出の小槌も美しい着物もみんな消えてなくなっていました



鬼は豆を投げつけられ、追い払われました

この狂言は「鬼(病気・災厄・貧困など様々な不幸)に負けずに、
マメに働くことによってこそ、福德は得られる ものである」ことを教えた狂言

後家が鬼を追っ払った後は、鬼の小槌も着物も消えうせ、後家はそれが危険な誘惑と悟る ー京都壬生寺HPよりー



壬生狂言と同じ流れを受け継ぐ尼崎大覚寺狂言
節分の豆まきのいわれをユーモラスに見せる「節分厄払い」
2014.2.3. 尼崎大覚寺で